



またやまた 北山田小だより

横浜市立北山田小学校 = 592-0061

プレッシャーに打ち勝って

副校長 佐々木 誠

秋分の日を過ぎるとさすがに厳しい暑さは遠のき、連日爽やかな天候が続いています。学校は10月に入り、あと一週間で前期の締めくくりをむかえようとしています。

先日の10周年記念秋季大運動会「スポーツフェスティバル2005」は良過ぎるほどの好天に恵まれ、盛況の内に終わりました。運動会のために、本校ふれあいの会役員の皆様をはじめ、保護者・地域の皆様には早朝から、あるいは閉会式のあとまで温かなご声援やお手伝いを頂きました事、心から感謝申し上げます。

6年生にとっては、小学校生活最後の運動会となりました。そこで、最高学年として全校をリードする立場で、かつ自らの思いを実現させるためにどのように運動会にかかわり、当日をどのように迎え、どんなことを学んだのかを作文をもとに探ってみました。

応援団や委員会(係)、縄跳び、障害物競走、100m走、騎馬戦、リレー、大玉送りなど様々な取り組みがある中で、応援団と縄跳びへの思いが際立っていました。

応援団になったある子は「中休み、昼休み、放課後と毎日練習。だんだん自信がついて、声も大きくなって、みんなとチームワークが深まってきた。当日は袴もはけたし、うまくいって達成感があつた」と書いてありました。

リレーに出た子は(バトンパスを練習する場面で)「6年生の出番と思い、必至で4年生にバトンパスのやり方を教えた。当日は心臓が破れそうで、死ぬ気で走って一位になった。中学でも走っていききたい。」

縄跳び「RISING」～跳べ!! 想いを胸に～については次のような文章が印象に残りました。

「短縄でさえキツかったのにダブルダッチ、大縄がさらに入ると聞くと気がめいりそうになった。それでも、朝練などでかなりできるようになった。」

「(本番で)何回かひっかかったけど、練習してきた中で一番よくできた。ダブルダッチもうまくいき、とても達成感があつた。最初はこんなことは出来ないと思っていたけど、ちゃんと出来るようになった。これからもこのことを自信にかえて、いろいろなことに挑戦していきたい。」

最後に、運動会を次のように締めくくっていました。いくつかを紹介します。

「最後の運動会でぼくは協力をおぼえました。これからもこの経験を生かしたいと思います。」

「運動会は終わってしまったけれど、またなにかの形でみんなと協力してがんばりたい」

「練習というものはとても大事なものだと思う」

他にも多くの感激する文章に出会いましたが、6年生全員に共通することは、不安と緊張で当日を迎え、自らの出番では全力を出し切ったことです。プレッシャーに打ち勝って一つの区切りをつけたこと、さすがと思います。運動会で学んだことを大切にして、自信をもって生活して行ってほしいと思います。